資料1

道内の感染状況等について

【令和4年10月21日】

主な指標の状況

10／20	レベル	移行指標 病床使用率	移行指標 重症病床使用率	移行指標 10万人当たり新規感染者数	その他指標 新規感染者数今週先週比	その他指標 陽性率
全 道	2	21.2%（490床）↗	0.8%（1床）↗	396.0人/週（20526人/週）↗	1.41 ↗	33.8% ↗
札幌市	2	24.8%（185床）↗	0.0%（0床）→	359.3人/週（7044人/週）↗	1.42 ↗	58.3% ↗
札幌市を除く地域	2	19.6%（305床）↗	1.3%（1床）↗	418.3人/週（13482人/週）↗	1.41 ↗	27.7% ↗

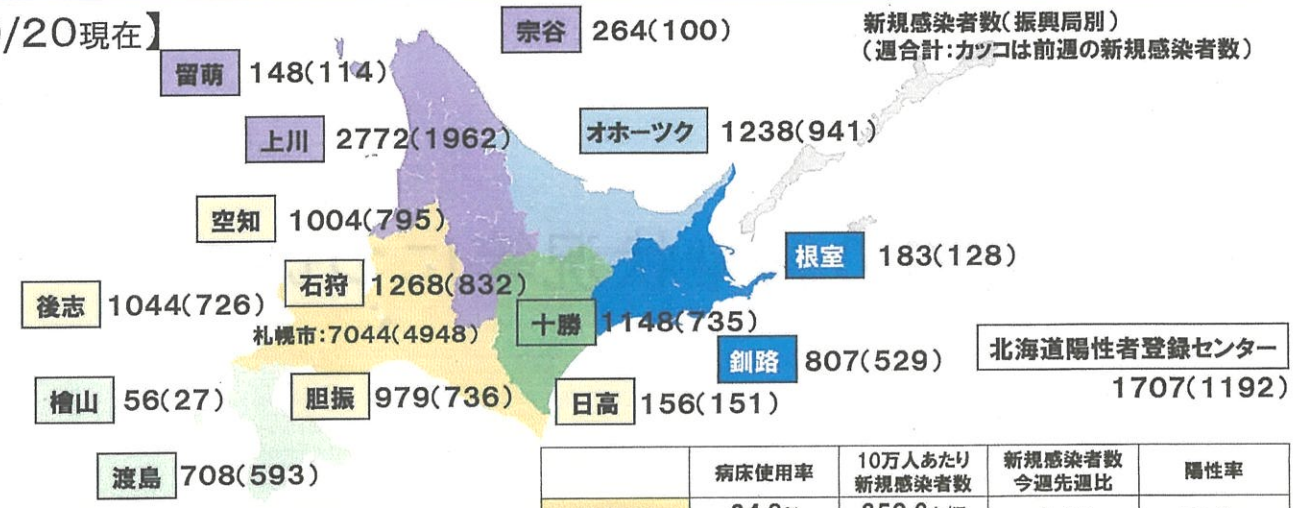
レベル２ 移行指標	20%	又は 20%	15人/週
レベル３ 移行指標	50%	又は 50%	－

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、１週間前との比較。

（注）・令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・札幌市の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数（19,296人）を検査数に含めず算出。検査数に含む場合、札幌市 22.5%　全道 25.6% となる。

地域における主な指標の状況

【10/20現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	24.8%（185床）	359.3人/週（7044人/週）	1.42	58.3%
道央圏（札幌市除く）	16.9%（84床）	332.9人/週（4451人/週）	1.37	23.6%
道北圏	34.3%（114床）	547.5人/週（3184人/週）	1.46	24.0%
道南圏	7.9%（19床）	185.8人/週（764人/週）	1.23	21.6%
十勝圏	29.8%（51床）	345.9人/週（1148人/週）	1.56	21.5%
オホーツク圏	4.8%（6床）	459.6人/週（1238人/週）	1.32	25.9%
釧路・根室圏	16.1%（31床）	339.1人/週（990人/週）	1.51	34.1%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。

※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別(圏域別)の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。

※札幌市の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数(19,296人)を検査数に含めず算出。検査数に含む場合、22.5% となる。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、病床使用率は減少が続いているものの、新規感染者数は下げ止まりや増加の動きがみられる。国の専門家からは、新規感染者数について、全国では増加に転じており、今後の増加速度及び増加が継続するかについて注視する必要がある、と指摘されている。

※参考：10月20日、新規感染者数先週比　東京1.12、大阪1.25、福岡1.20、沖縄0.80（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、21．2%と、増減をしながら横ばいとなっている。また、札幌市については24．8%と、同様に横ばいとなっている。重症病床使用率は0．8%となっており、低い水準で推移している。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、人口10万人当たりでは396．0人。8月26日に今週先週比が1を下回り、その後、一時的に増加したものの、減少傾向が継続してきたが、10月13日には1を上回り、以降、増加傾向が続いている。年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割を占めている。

総　評　②

【今後の対策】

○ 新規感染者数の減少傾向は1か月以上続いてきたが、増加傾向に転じた状況となったことから、今後の動向について慎重にモニタリングを行っていく。また、急速な感染拡大を抑え、社会経済活動をできる限り維持していくため、改めて、道民の皆様に基本的な感染防止行動の実践やワクチン接種の検討について呼びかけるとともに、事業者の方々に感染防止対策の徹底に取り組んでいただけるよう働きかける。

○ 道北圏の即応病床については、地域の状況を踏まえ、暫定的にフェーズ2相当として運用してきたが、10月24日からフェーズ1として運用する。

○ 国においては、「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」を開催し、ピーク時に全国で75万人の患者が生じる可能性を想定した上で、重症化リスクに応じた外来受診の流れや、国民への呼びかけ方針を示した。道としても、国の通知を踏まえ、高齢者等重症化リスクのある方に適切な医療が提供できるよう、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画」の策定に向け、専門家の意見を伺うとともに、関係団体とも連携を図りながら検討を進める。

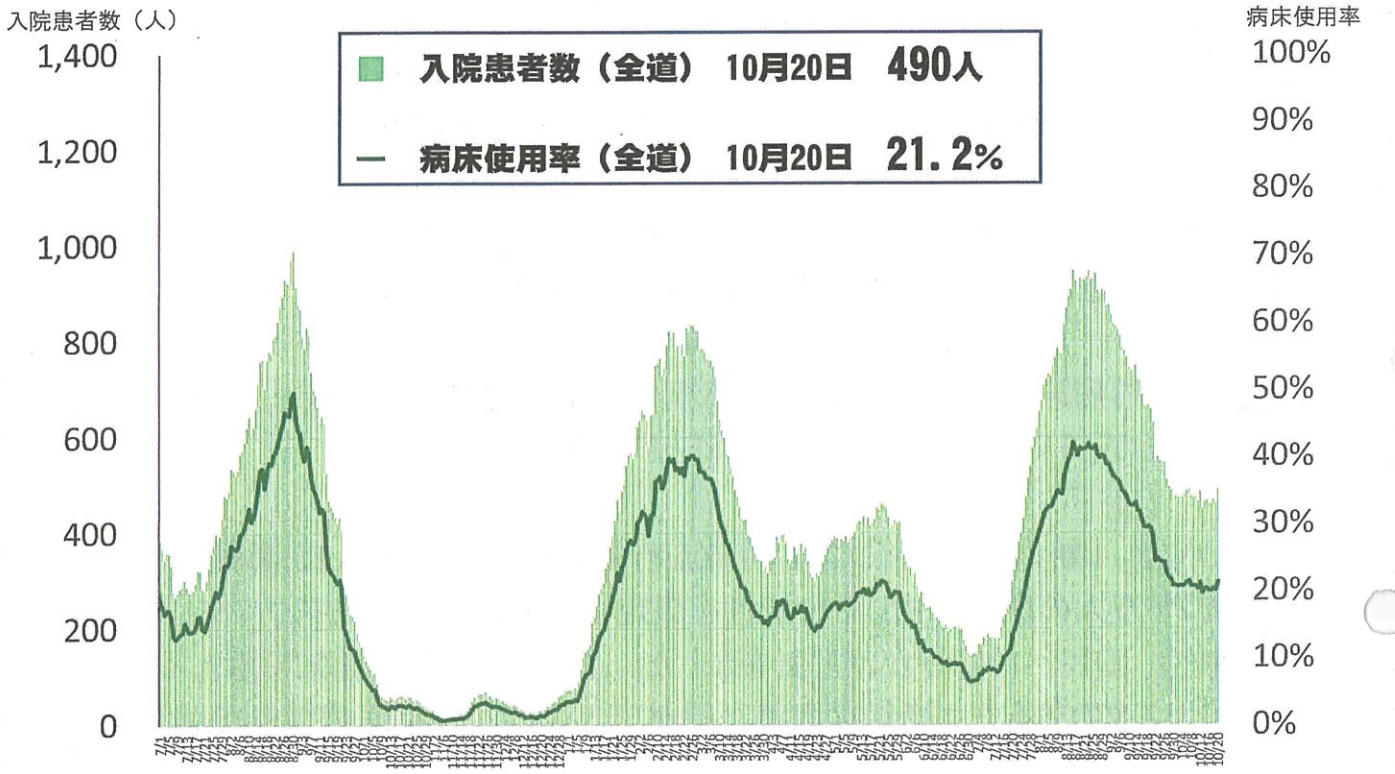
総　評　③

○ 乳幼児（6ヶ月～4歳）へのワクチン接種については10月24日から接種が可能となり、道内市町村でも準備が整い次第、順次開始される。また、オミクロン株対応ワクチン等の接種間隔について5ヶ月から3ヶ月に短縮されたことから、年内に希望する方全員が接種できるよう、北海道ワクチン接種センターの活用や市町村の体制整備の一層の支援に努める。引き続き、早期接種を促進するため、多様な媒体による広報を進める。

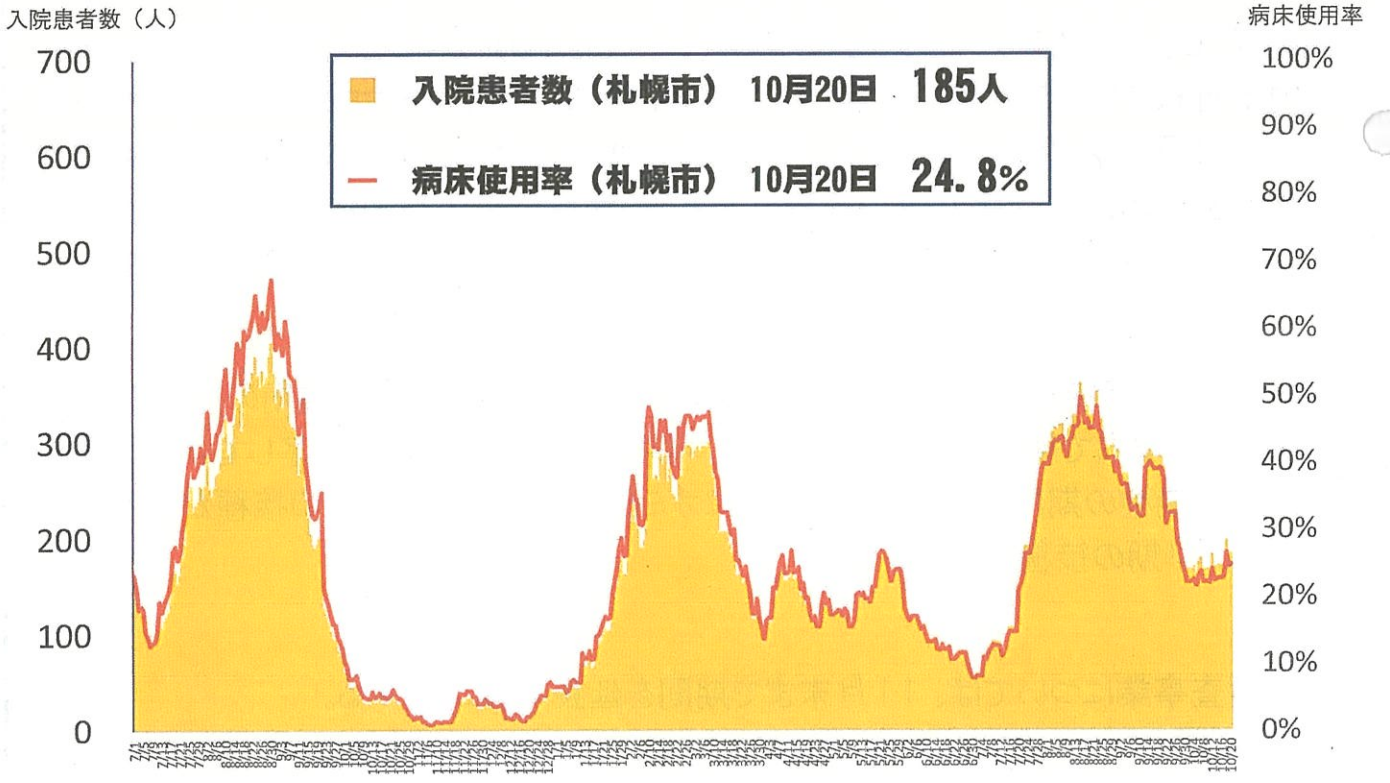
○ また、1、2回目接種が完了していない方については、1、2回目接種用の従来型ワクチンの供給が年内で終了予定であることや、年内に2回目の接種を完了していない場合、特例臨時接種の期間である年度末までにオミクロン株対応ワクチンの接種ができないことから、早期の接種を働きかける。

○ 無料検査事業については、11月末まで期間を延長することとする。

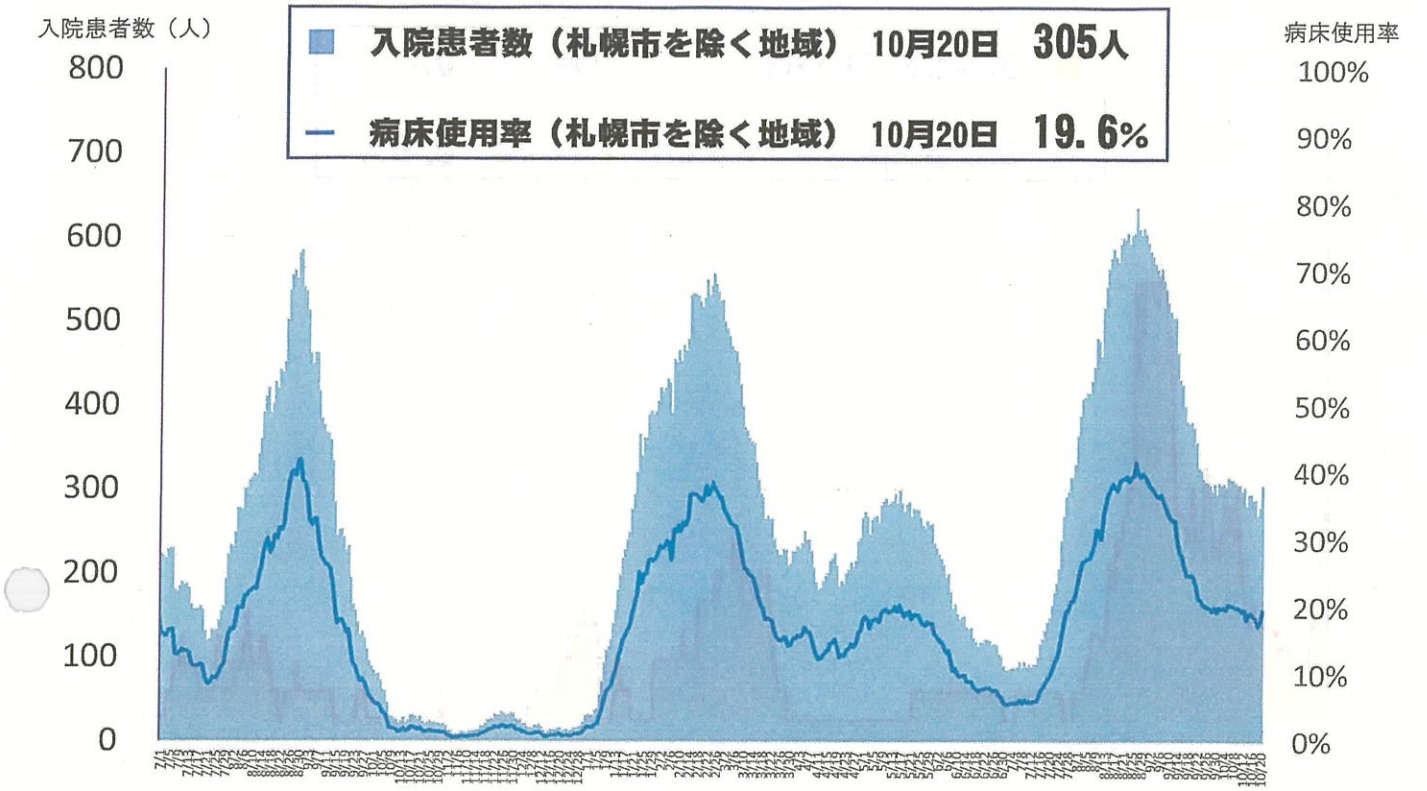
入院患者数と病床使用率（全道）



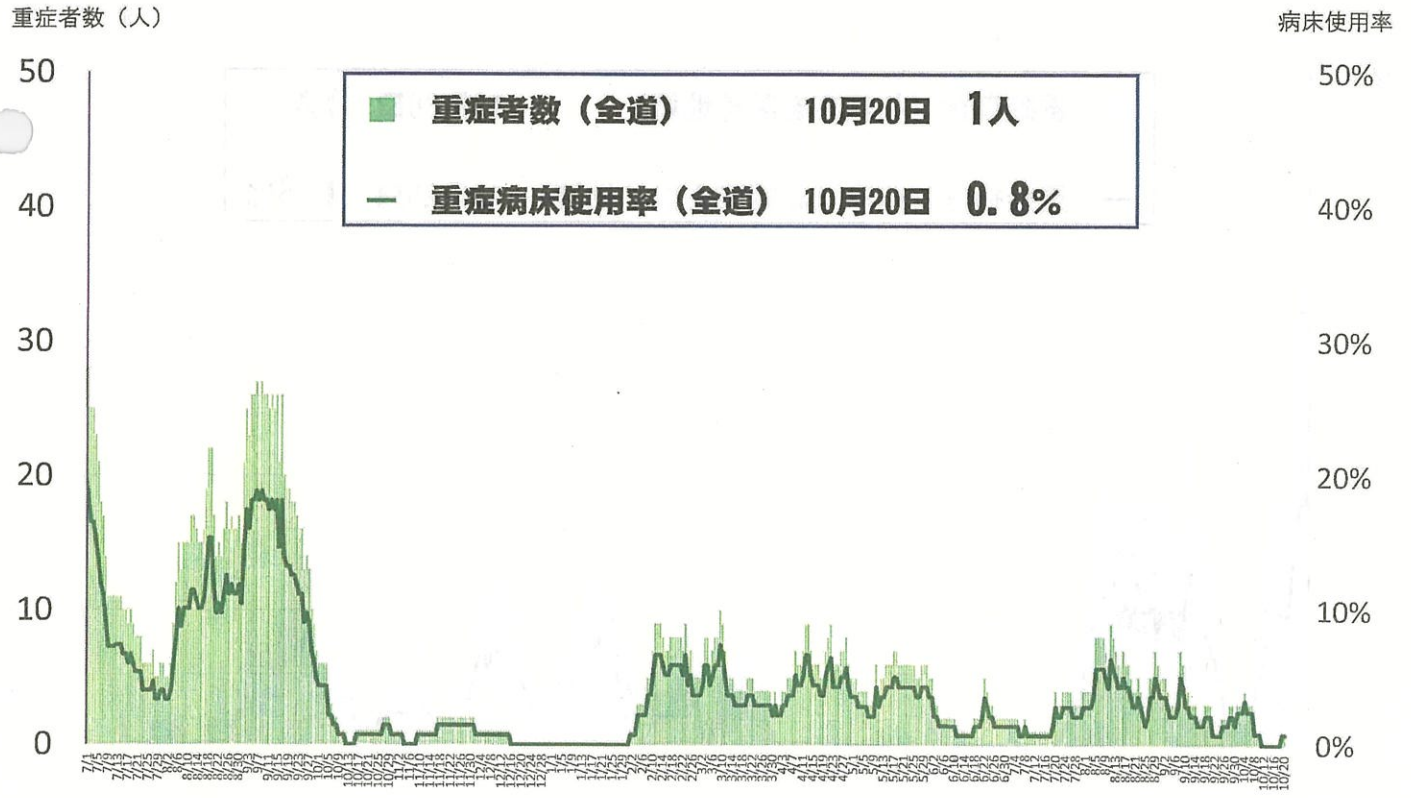
入院患者数と病床使用率（札幌市）



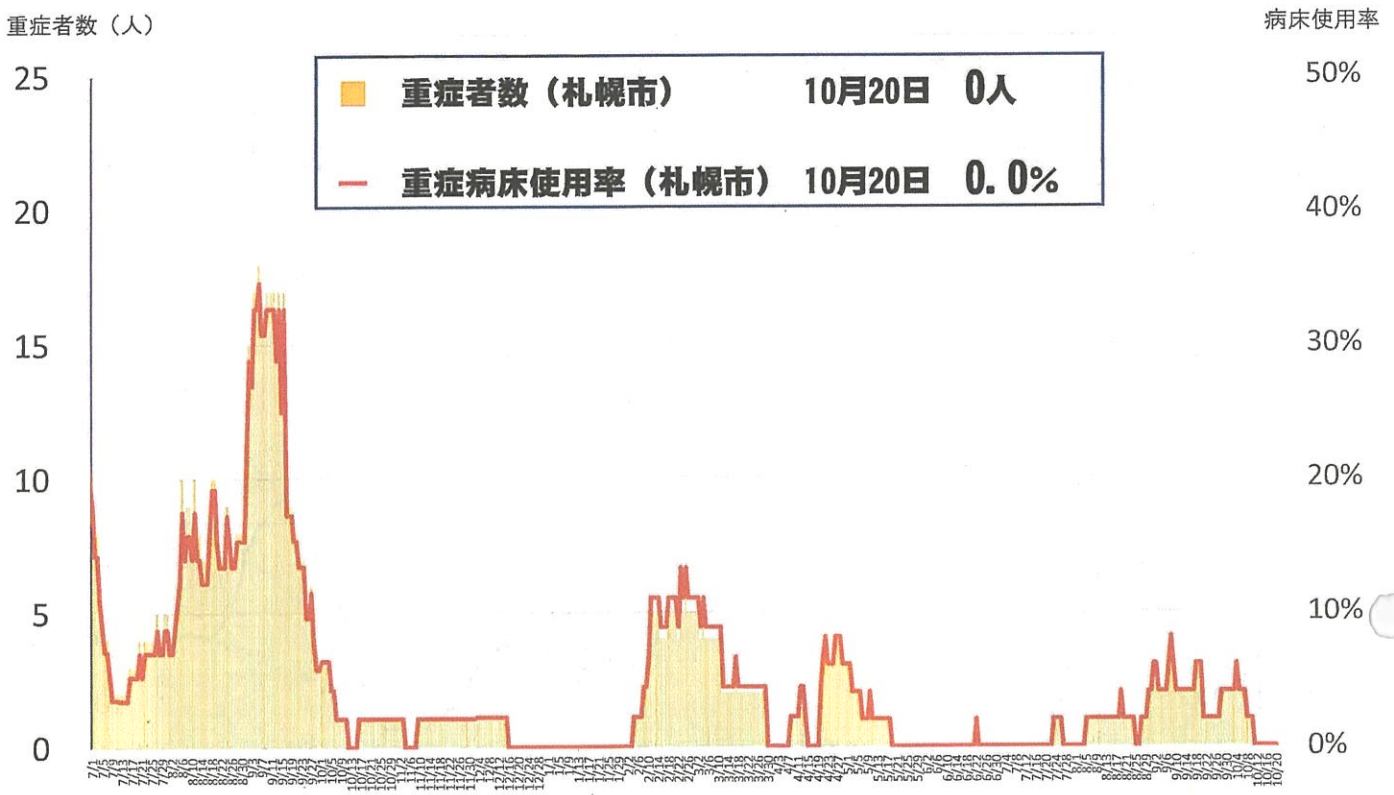
入院患者数と病床使用率（札幌市を除く地域）



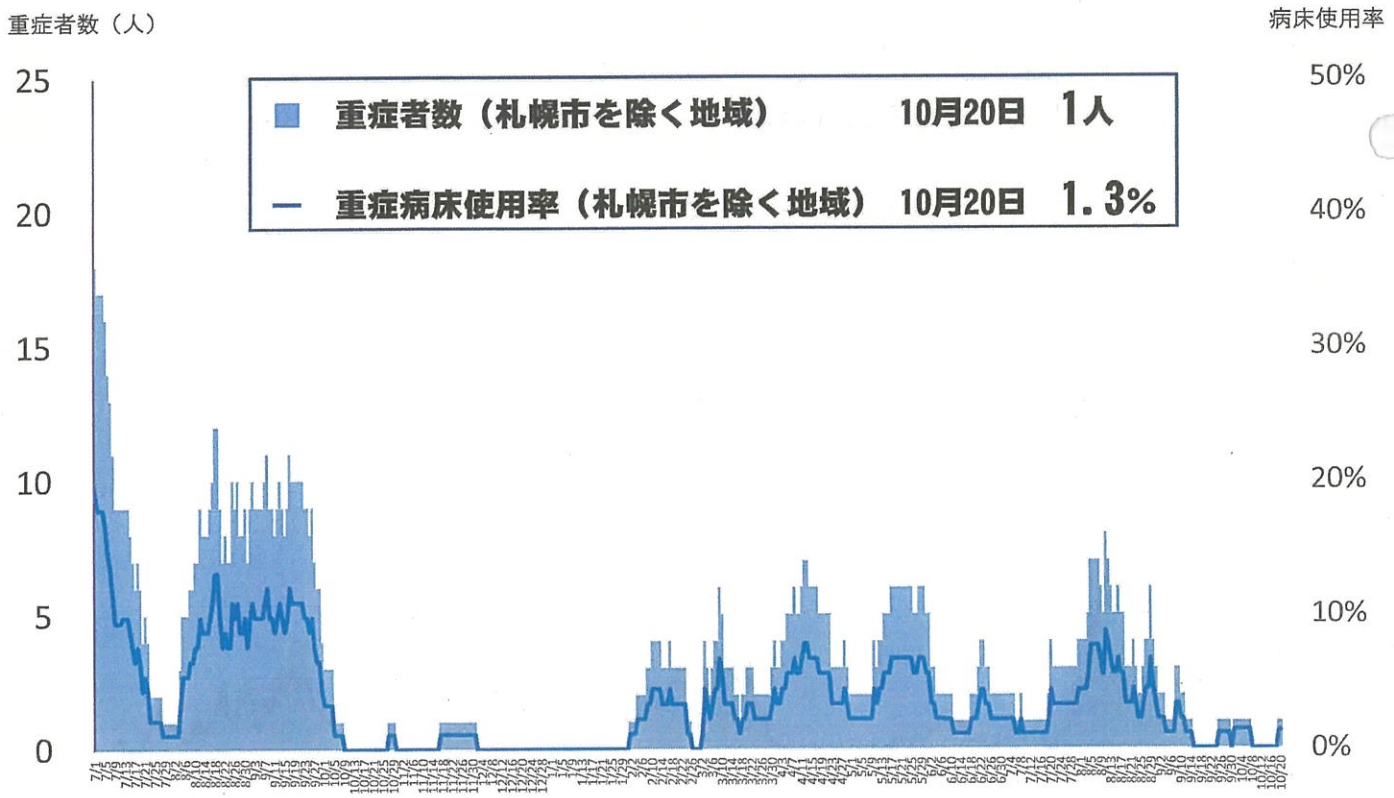
重症者数と重症病床使用率（全道）



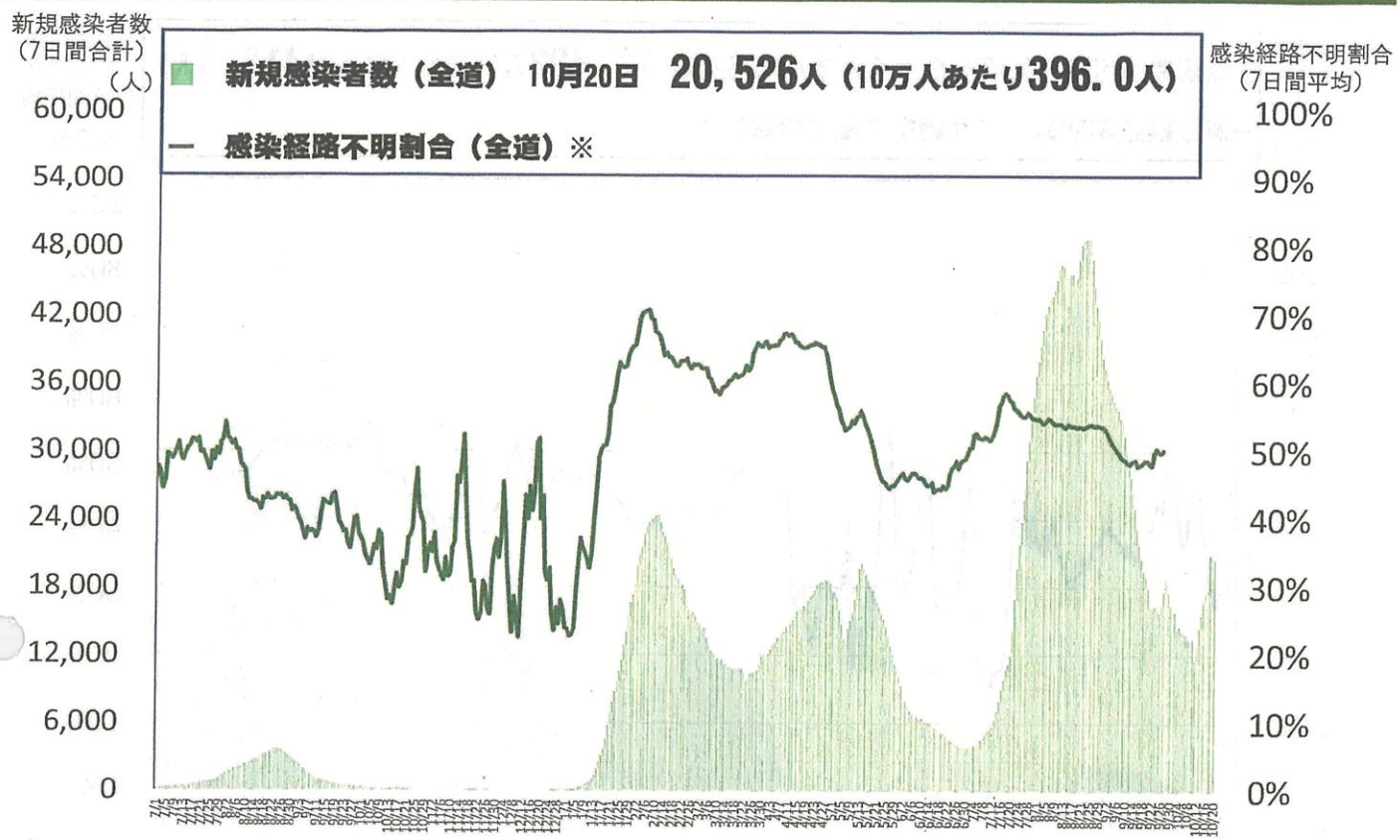
重症者数と重症病床使用率（札幌市）



重症者数と重症病床使用率（札幌市を除く地域）

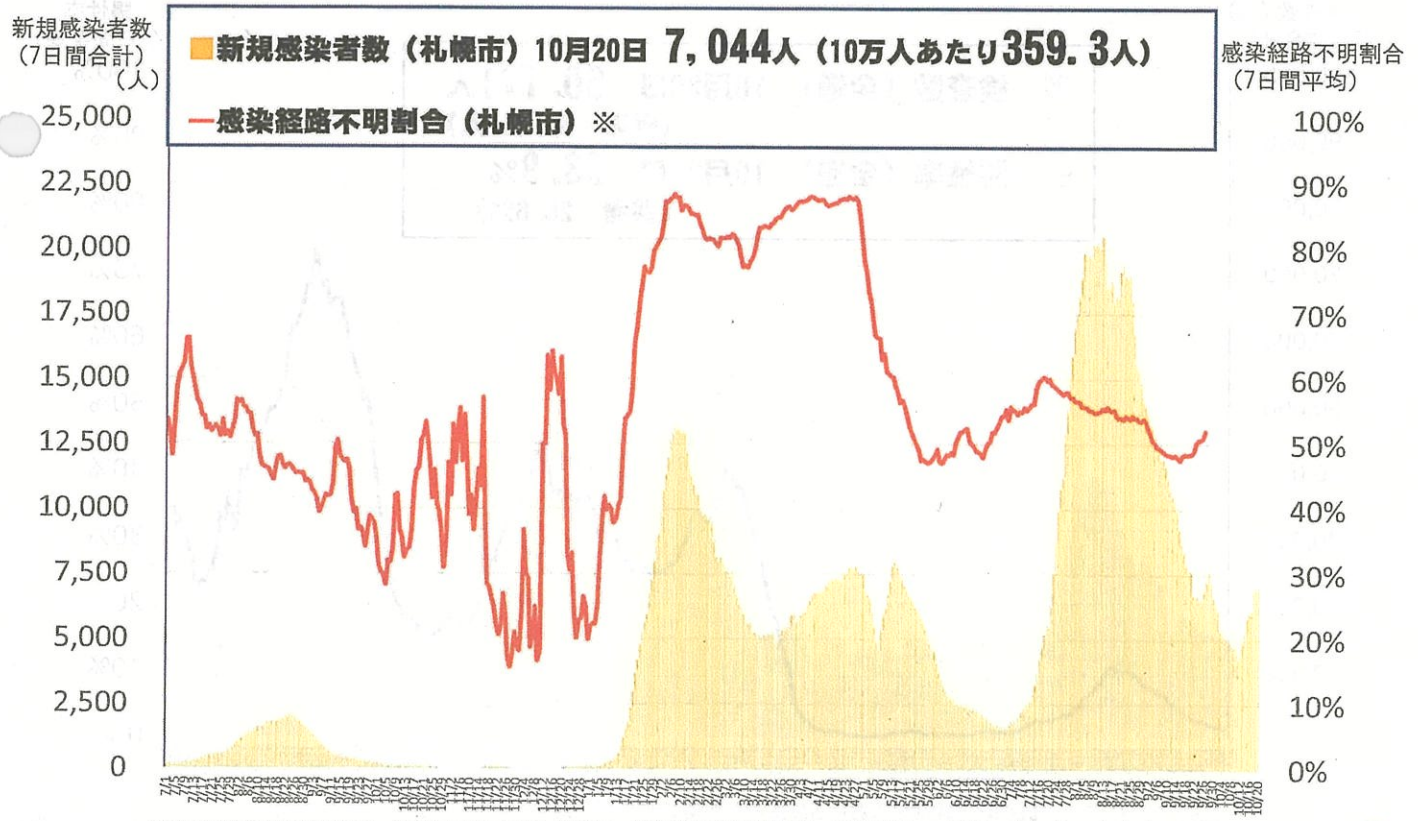


新規感染者数（全道）



※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。

新規感染者数（札幌市）



※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。